

岡山県感染症週報 2016年 第44週 (10月31日～11月6日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

【お知らせ】 今週から『インフルエンザ週報』の掲載を開始しました。

◆2016年 第44週 (10/31～11/6) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第44週 2類感染症 結核 1名 (80代 女)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3名 (O111: 高校生 男 1名、
 O121: 50代 女 1名、O157: 30代 女 1名)
 4類感染症 レジオネラ症 1名 (40代 男)
 5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (80代 女)
 破傷風 1名 (70代 女)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- RSウイルス感染症は、県全体で 56 名 (定点あたり 1.30 → 1.04 人) の報告があり、前週より減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 507 名 (定点あたり 7.20 → 9.39 人) の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザは、県全体で 13 名 (定点あたり 0.11 → 0.15 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

【第45週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 高校生 男) の発生がありました。(11月9日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第44週に3名の報告があり、2016年第44週まで(～11/6)の報告数は60名となりました。岡山県では「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、発生報告が多いのは夏季ですが、依然として患者の発生がつついています。ひきつづき手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. **RSウイルス感染症**は、県全体で56名(定点あたり1.30→1.04人)の報告があり、3週連続で減少しました。報告数は減少したものの、依然として患者の発生がつついています。地域別では、美作地域(1.83人)、備中地域(1.43人)、岡山市(1.07人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で507名(定点あたり7.20→9.39人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、美作地域(16.83人)、備北地域(13.75人)、倉敷市(13.73人)の順で、定点あたり報告数が多くなっており、特に備北地域(5.25→13.75人)では、前週より大きく増加しました。年齢別割合では、0-2歳が39%と最も高く、5歳以下の乳幼児が全体の67%を占めています。この感染症は、通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。流行シーズンである冬季に向けて、今後の発生状況に注意するとともに、手洗いや下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防に努めましょう。
4. **インフルエンザ**は、県全体で13名(定点あたり0.11→0.15人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↗	★★★★★	RSウイルス感染症	↘	★★
咽頭結膜熱	↗	★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	↗	★★★★★	水痘	↘	★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	↘	★	百日咳	↘	
ヘルパンギーナ	↗	★★★	流行性耳下腺炎	↗	★★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↘	
マイコプラズマ肺炎	↘	★	クラミジア肺炎	↗	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

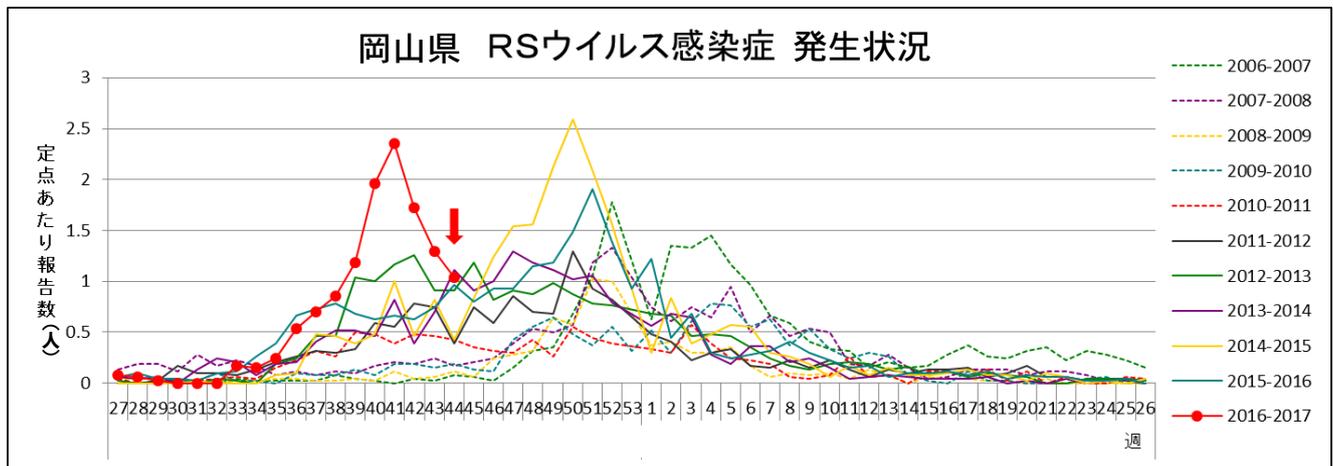
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白：発生なし ★：わずか ★★★：少し ★★★★★：やや多い ★★★★★★：多い ★★★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】



※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約7割の乳児が1歳になるまでにRSウイルスに感染し、そのうちの約3割が肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を示します。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。乳児が感染すると、症状が悪化しても平熱か38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼーゼーとのが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

感染している人が咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、ウイルスがついている手指や物品を触ったり、なめたりすることにより感染します。

【乳児への感染予防】

乳児期を過ぎると、RSウイルスに感染しても軽症となり、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の予防につながります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。現在、RSウイルス感染症に有効なワクチンはありません。

【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

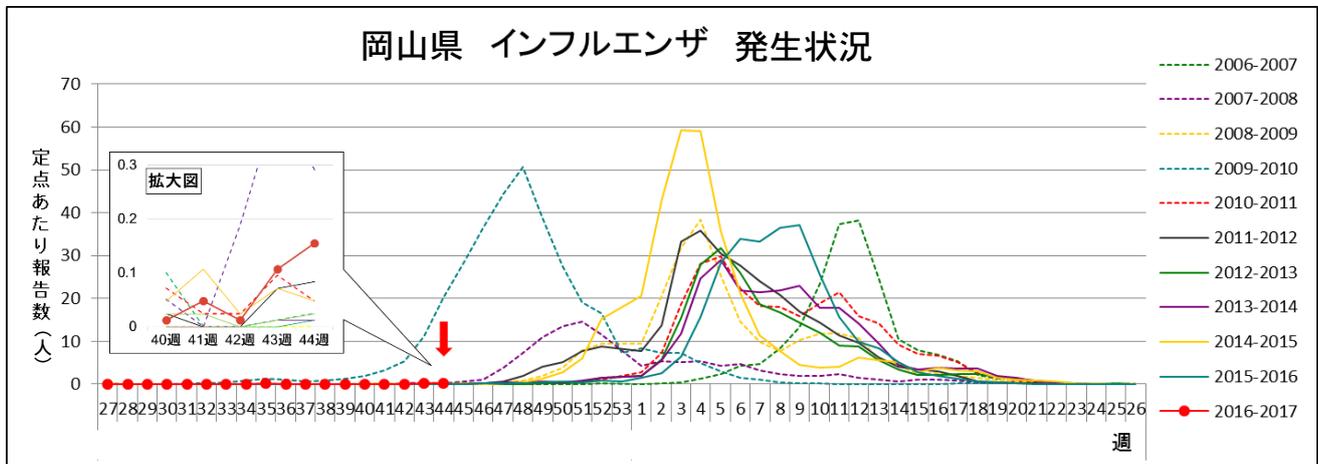
[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

インフルエンザ週報 2016年 第44週 (10月31日～11月6日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で13名(定点あたり0.15人)の報告がありました。(84定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、美作地域で5名、備中地域で3名、倉敷市・備前地域で各2名、備北地域で1名の報告があり、県全体では13名(定点あたり0.15人)の発生となっています。今シーズン(2016/9/5～)は、第36週(9/5～9/11)から散発的に患者が報告されており、第37週(9/12～9/18)に入院患者1名の報告がありました。患者の発生は少数にとどまっています。

全国の第43週(10/24～10/30)の発生状況は、定点あたり報告数が0.47人であり、今シーズンに入ってから徐々に増加しています。都道府県別では、沖縄県(11.40人)、福井県(1.66人)、岩手県(1.08人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。沖縄県では、今後4週間以内に大きな流行の可能性を示す、定点あたり10.00人を超えており、流行開始の目安(定点あたり1.0人)を超える都道府県も、すでに2県となっています。また今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が81株、AH1pdm09型が14株、B型が4株〔ビクトリア系統3株・山形系統1株〕検出されており、昨シーズンの同時期同様AH3型が最も多く検出されています(11月4日現在)。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、県内でもすでにインフルエンザによるとみられる学校の臨時休業がありました。外出後は手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2016年第43週 \(国立感染症研究所\)](#)

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[平成28年度 今冬のインフルエンザ総合対策について \(厚生労働省\)](#)

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。

本格的な流行が始まる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

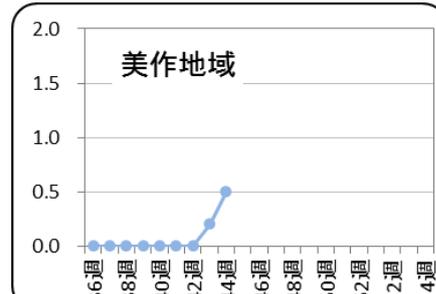
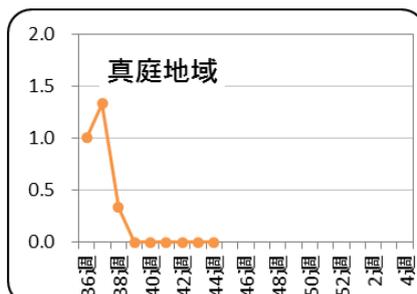
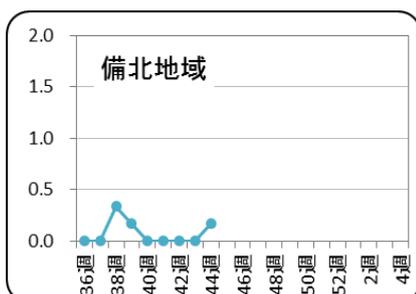
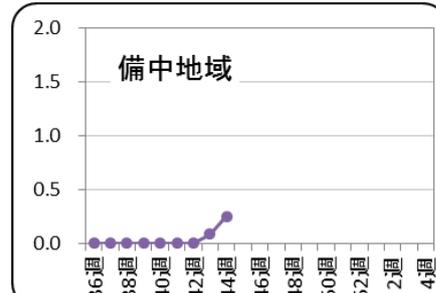
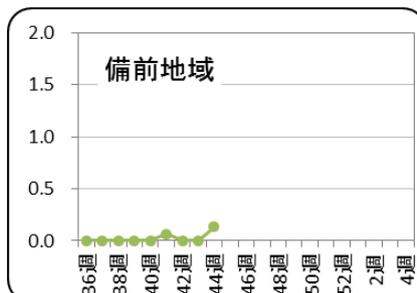
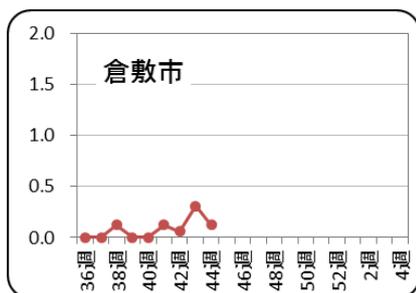
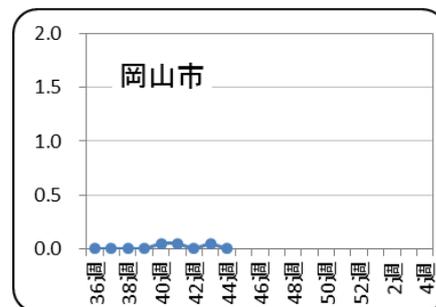
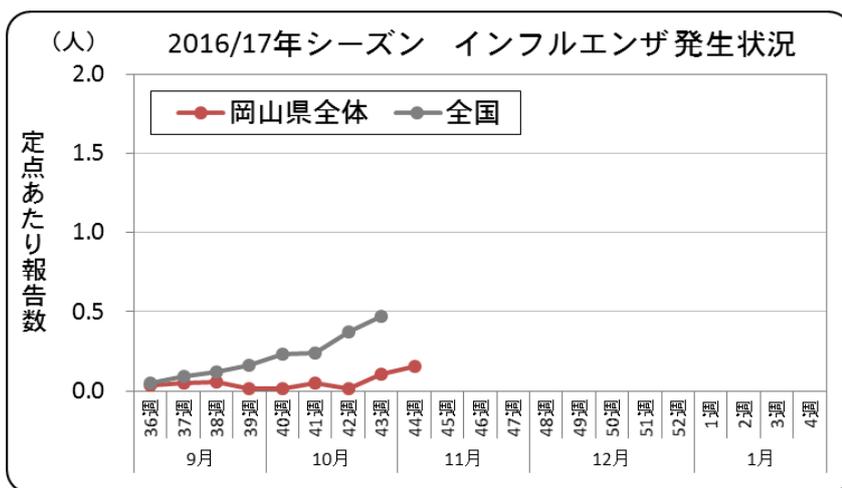
◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	13	↗	備 中	患者数	3	↑
	定点あたり	0.15			定点あたり	0.25	
岡山市	患者数	0	↓	備 北	患者数	1	↑
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.17	
倉敷市	患者数	2	↓	真 庭	患者数	0	→
	定点あたり	0.13			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	2	↑	美 作	患者数	5	↑
	定点あたり	0.13			定点あたり	0.50	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減



2. インフルエンザウイルス検出状況

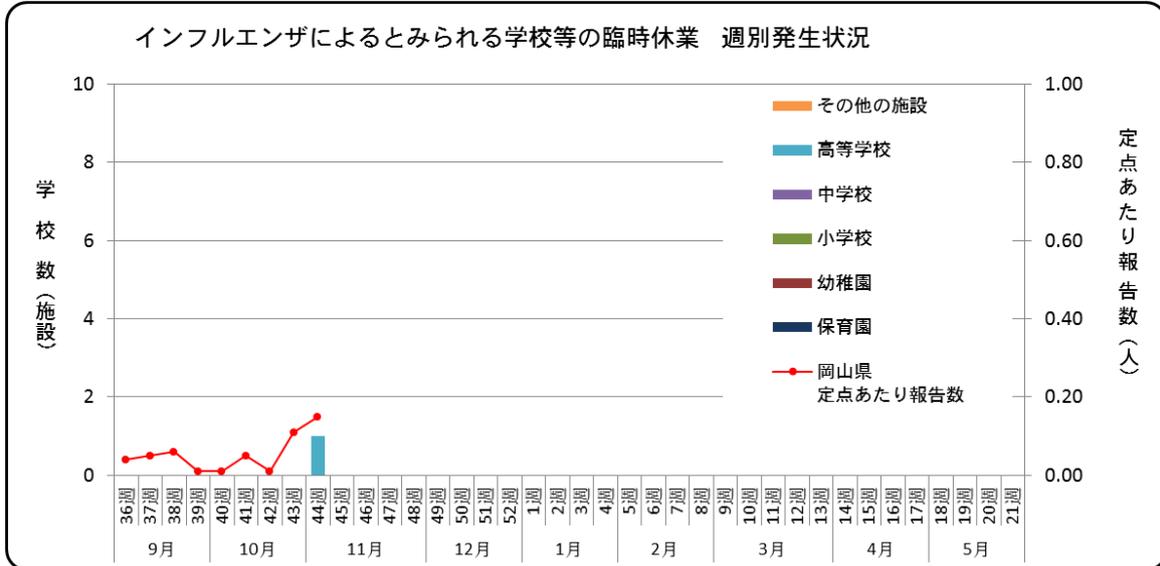
第44週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。

3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。

【第44週 臨時休業施設数】

▽総社市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	11	11	9	9	1	1	-	-	-	-	1	1	H28.11.2
岡山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
倉敷市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
備前地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
備中地域	11	11	9	9	1	1	-	-	-	-	1	1	H28.11.2
備北地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
真庭地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美作地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2) 臨時休業施設数の内訳

第44週：1施設

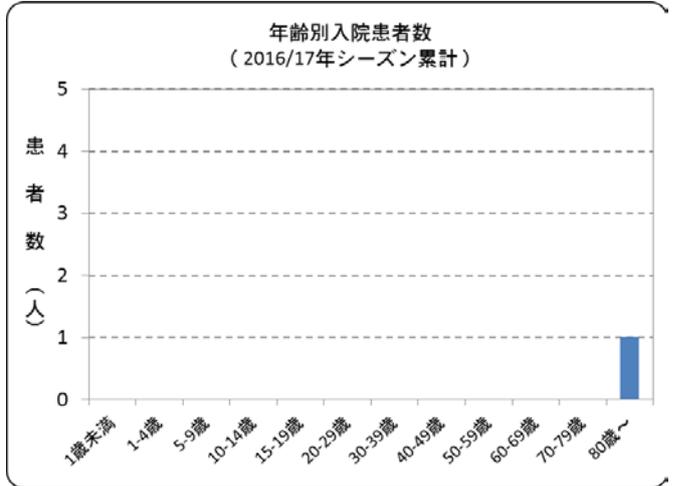
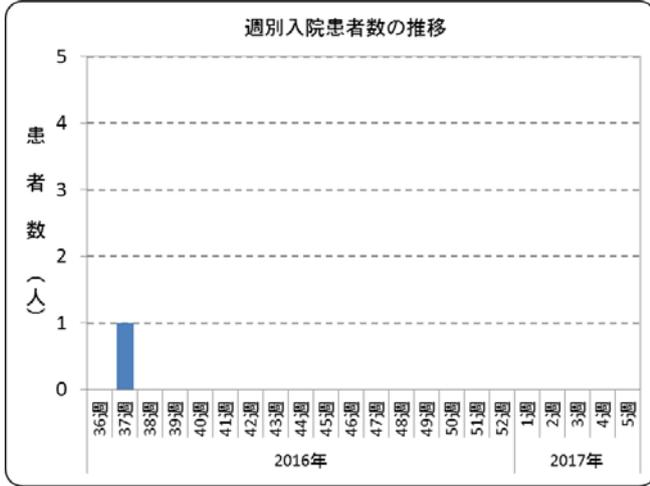
累計：1施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-

4. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【2016年9月5日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計
入院患者数												1	1
ICU入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部CT検査(予定含) *													
頭部MRI検査(予定含) *													
脳波検査(予定含) *													
いずれにも該当せず												1	1

* 重複あり

保健所別報告患者数 2016年 44週(定点把握)

(2016/10/31～2016/11/06)

2016年11月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.15	-	-	2	0.13	2	0.13	3	0.25	1	0.17	-	-	5	0.50
RSウイルス感染症	56	1.04	15	1.07	11	1.00	5	0.50	10	1.43	4	1.00	-	-	11	1.83
咽頭結膜熱	12	0.22	2	0.14	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.80	11	0.79	23	2.09	-	-	6	0.86	1	0.25	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	507	9.39	79	5.64	151	13.73	66	6.60	39	5.57	55	13.75	16	8.00	101	16.83
水痘	9	0.17	3	0.21	2	0.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
手足口病	33	0.61	17	1.21	8	0.73	8	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	15	0.28	9	0.64	2	0.18	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	0.17	-	-	1	0.09	4	0.40	4	0.57	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	40	0.74	8	0.57	27	2.45	4	0.40	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 44週(発生レベル設定疾患)

(2016/10/31～2016/11/06)

2016年11月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.15	-	-	2	0.13	2	0.13	3	0.25	1	0.17	-	-	5	0.50
咽頭結膜熱	12	0.22	2	0.14	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.80	11	0.79	23	2.09	-	-	6	0.86	1	0.25	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	507	9.39	79	5.64	151	13.73	66	6.60	39	5.57	55	13.75	16	8.00	101	16.83
水痘	9	0.17	3	0.21	2	0.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
手足口病	33	0.61	17	1.21	8	0.73	8	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	0.17	-	-	1	0.09	4	0.40	4	0.57	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	40	0.74	8	0.57	27	2.45	4	0.40	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第44週 2016/10/31~2016/11/06)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	13	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	4	1	-	1	1	1	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	56	12	16	16	6	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	12	-	1	1	4	1	2	3	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	-	2	2	3	1	7	5	7	4	2	2	5	2	1
感染性胃腸炎	507	1	38	100	59	64	40	41	25	14	17	13	34	7	54
水痘	9	-	1	2	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	2
手足口病	33	-	7	19	1	1	2	-	2	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	15	1	3	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	-	-	1	1	3	-	1	1	-	1	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	40	-	-	-	2	5	13	5	4	1	4	2	4	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-

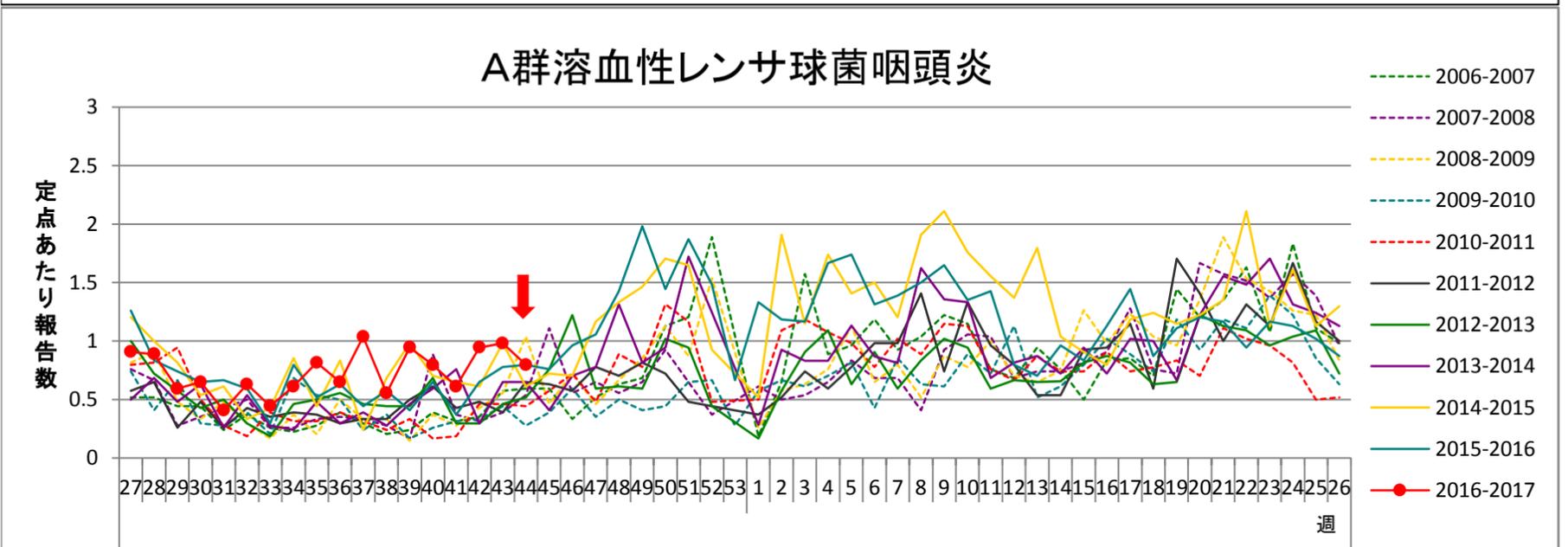
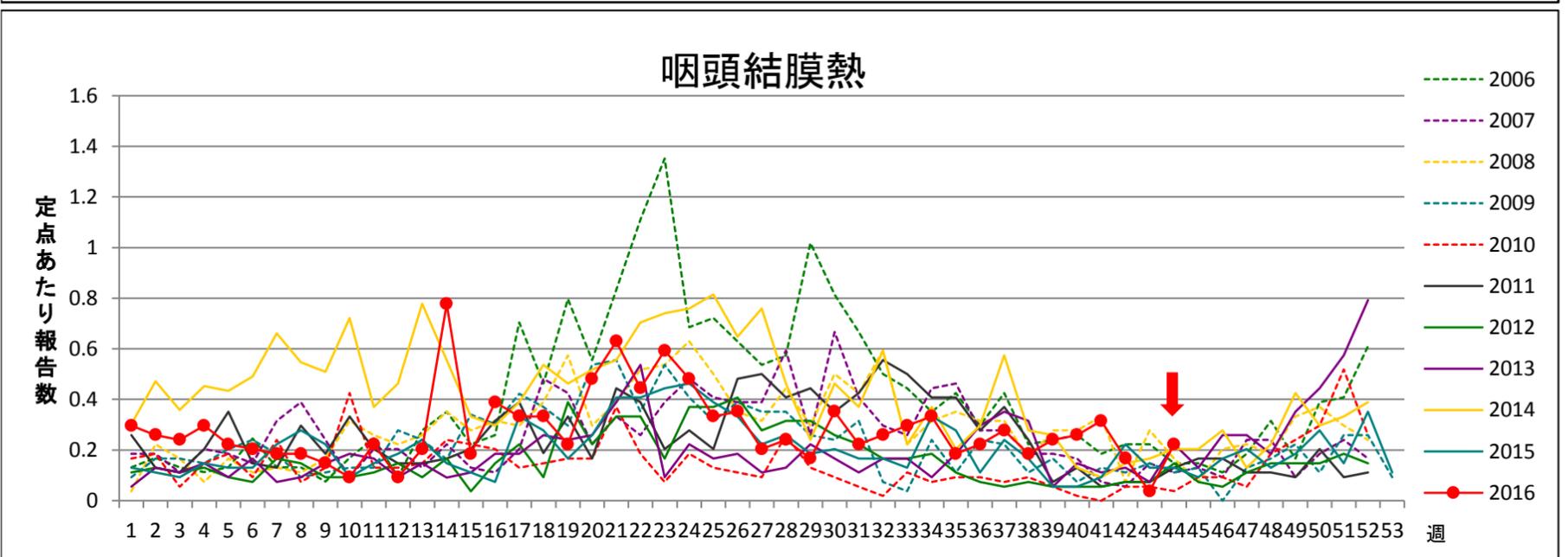
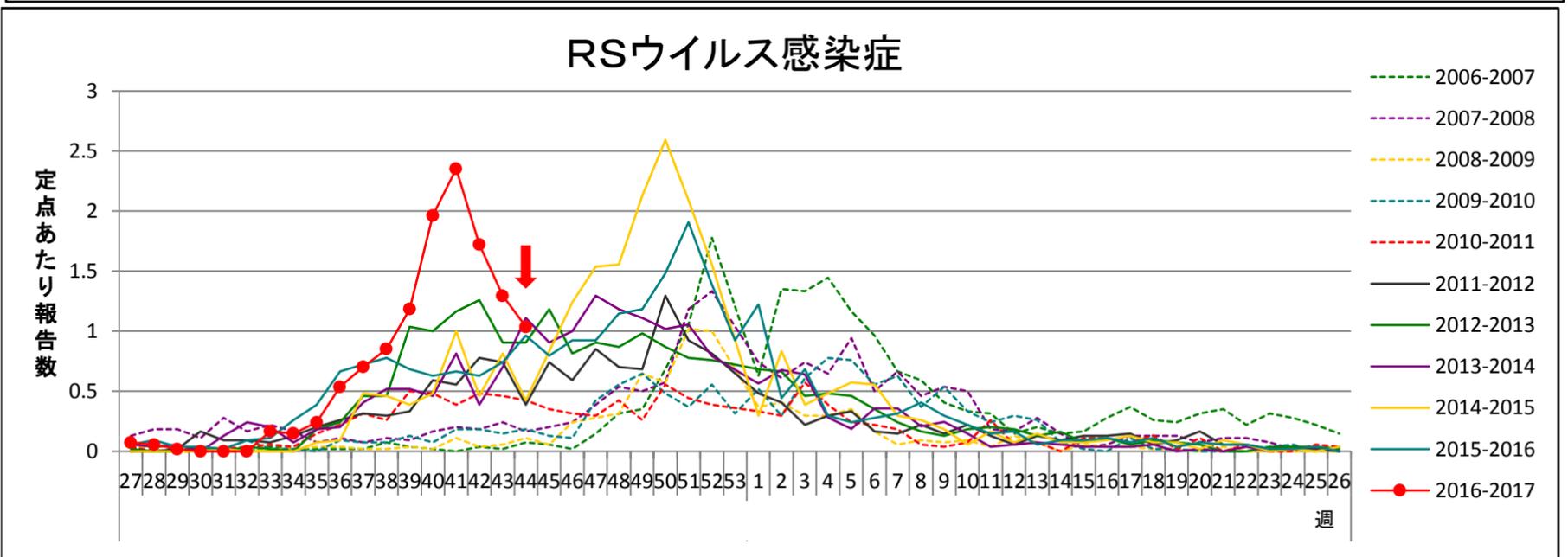
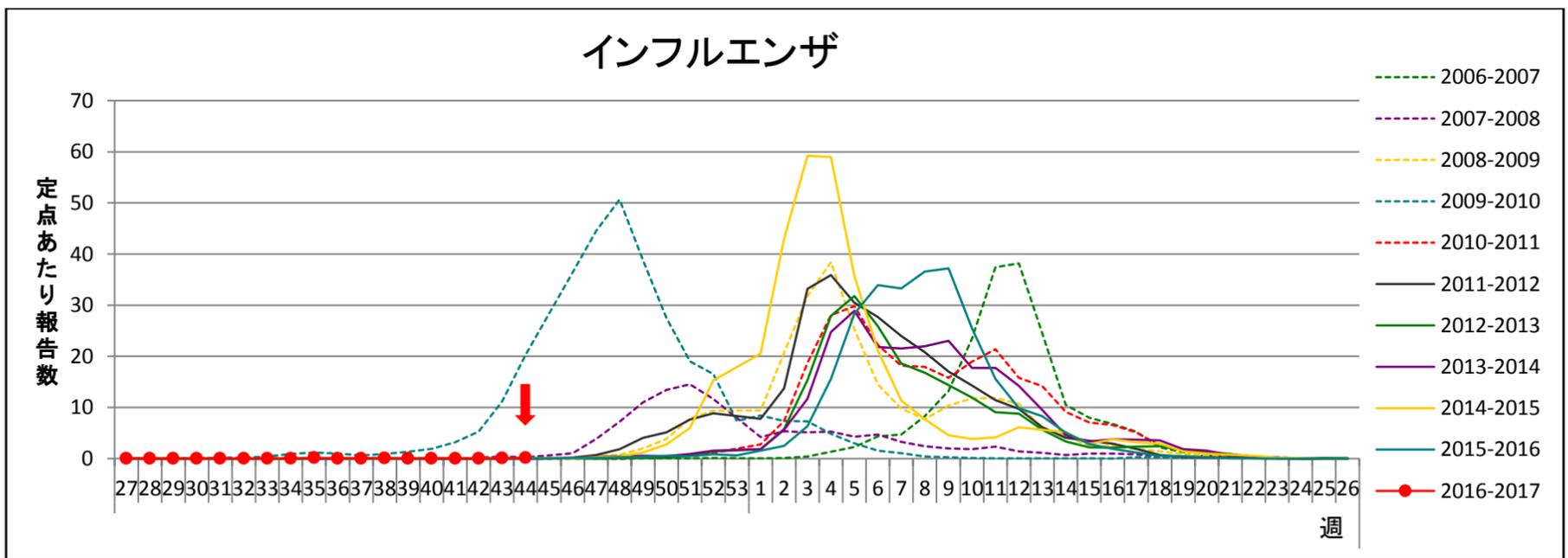
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

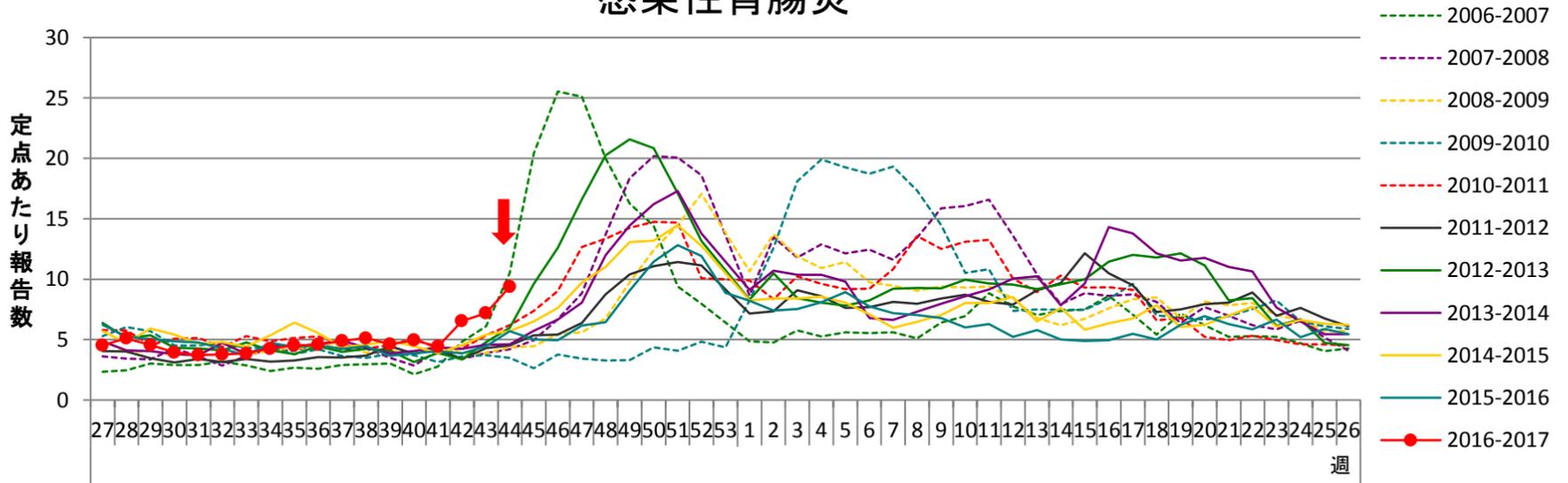
全数把握 感染症患者発生状況

2016年 44週

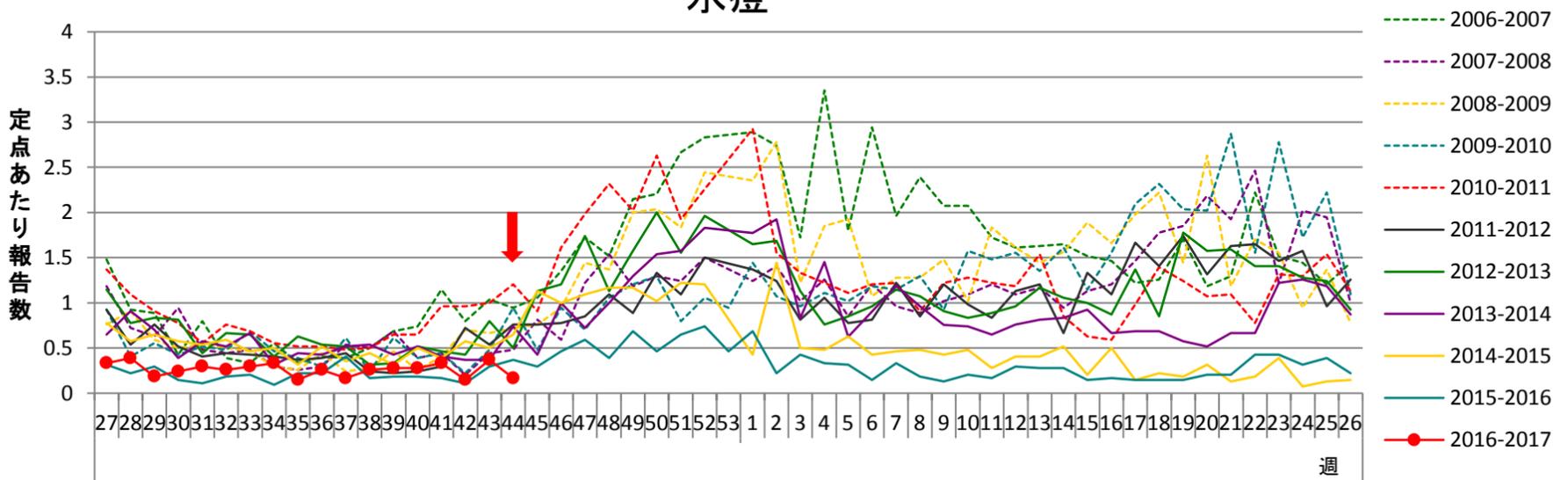
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	252	374	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	3	60	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	4	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	9
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	1
	デング熱	-	1	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	1	-	日本紅斑熱	-	4	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	23	28
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	17	17	ウイルス性肝炎*3	-	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	24
急性脳炎*4		-	8	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	7	2	後天性免疫不全症候群	-	9	21	ジアルジア症	-	1	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	6	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	25	35
水痘(入院例に限る。)		-	1	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	31	25
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	1	3	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	1	-	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



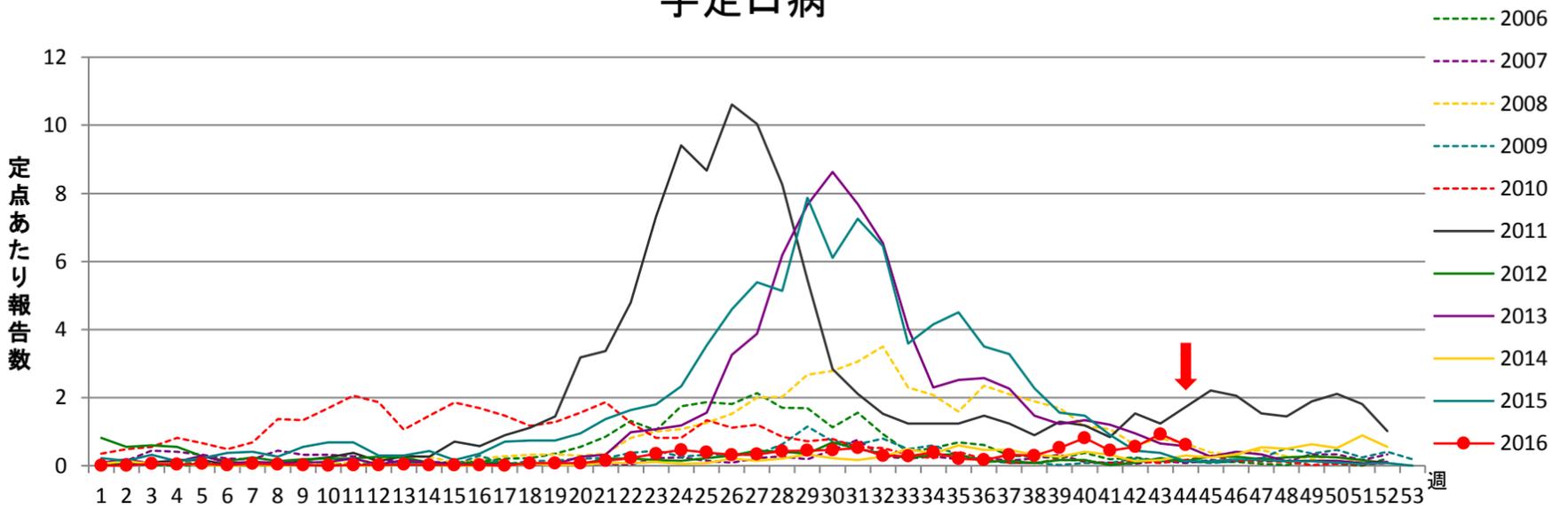
感染性胃腸炎



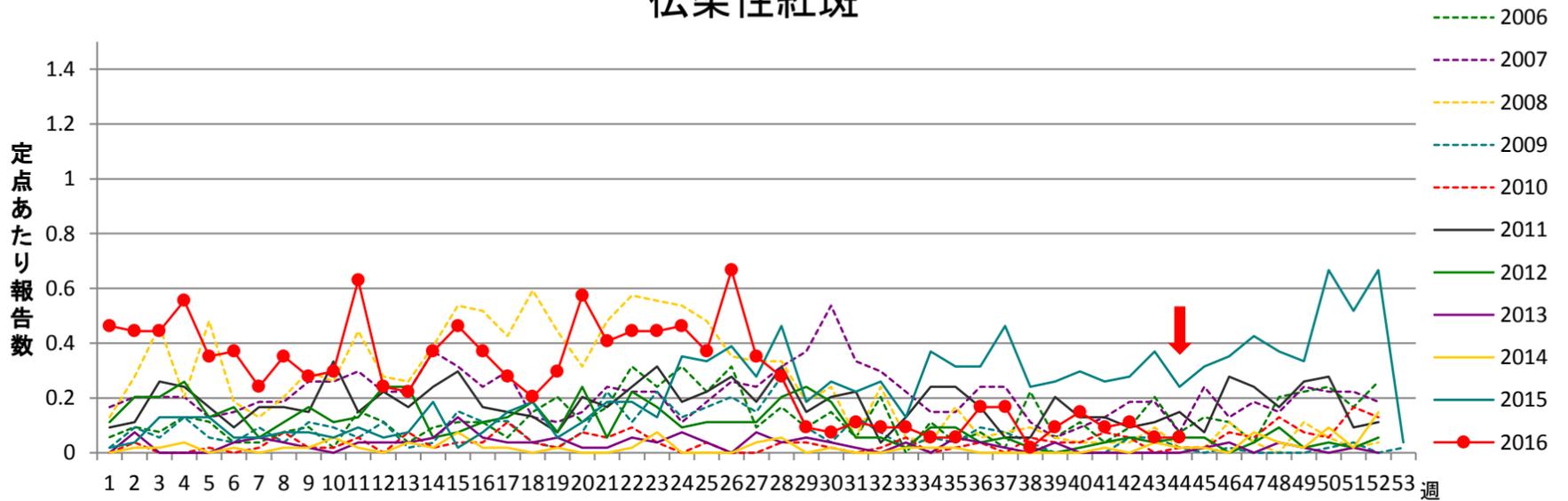
水痘



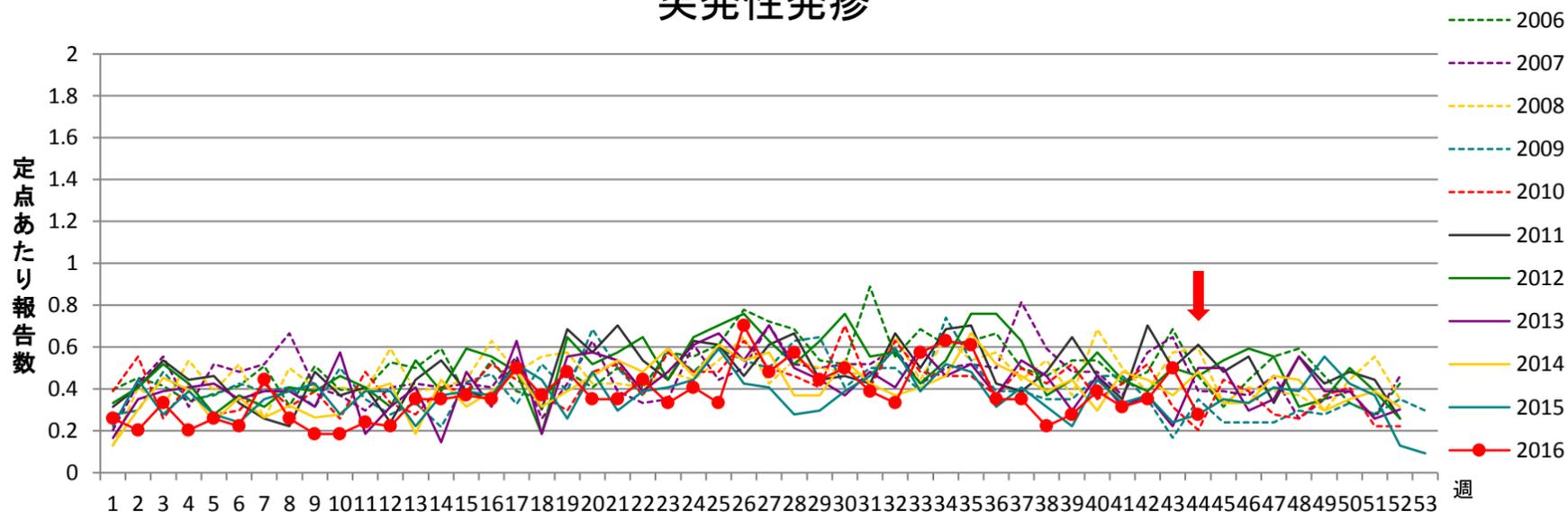
手足口病



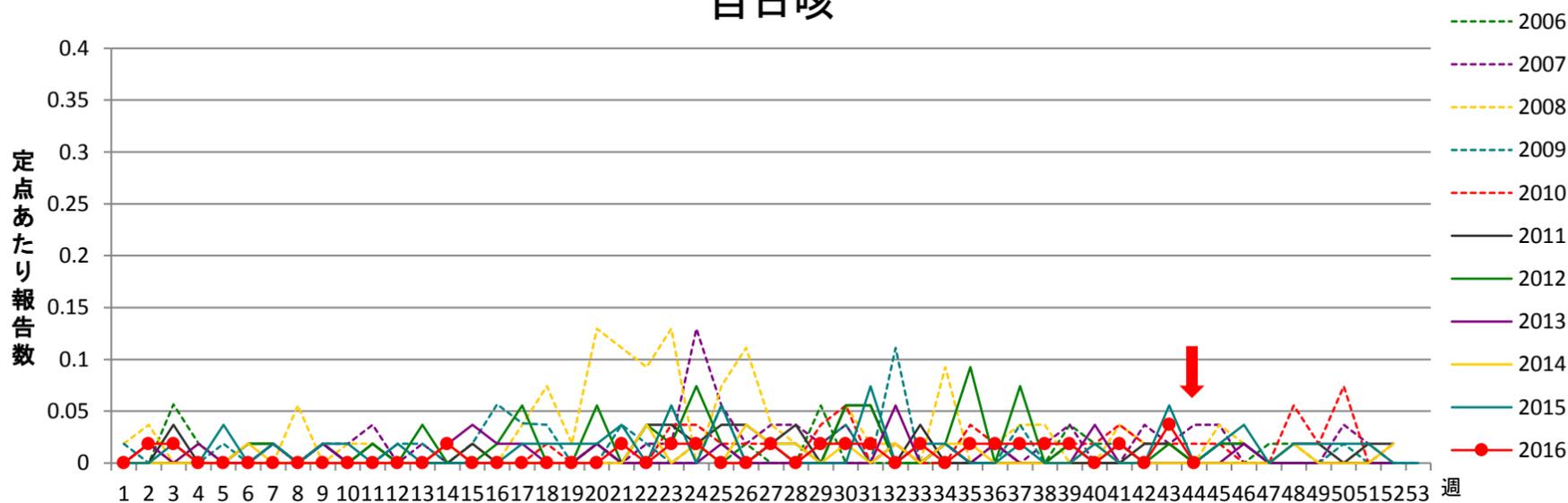
伝染性紅斑



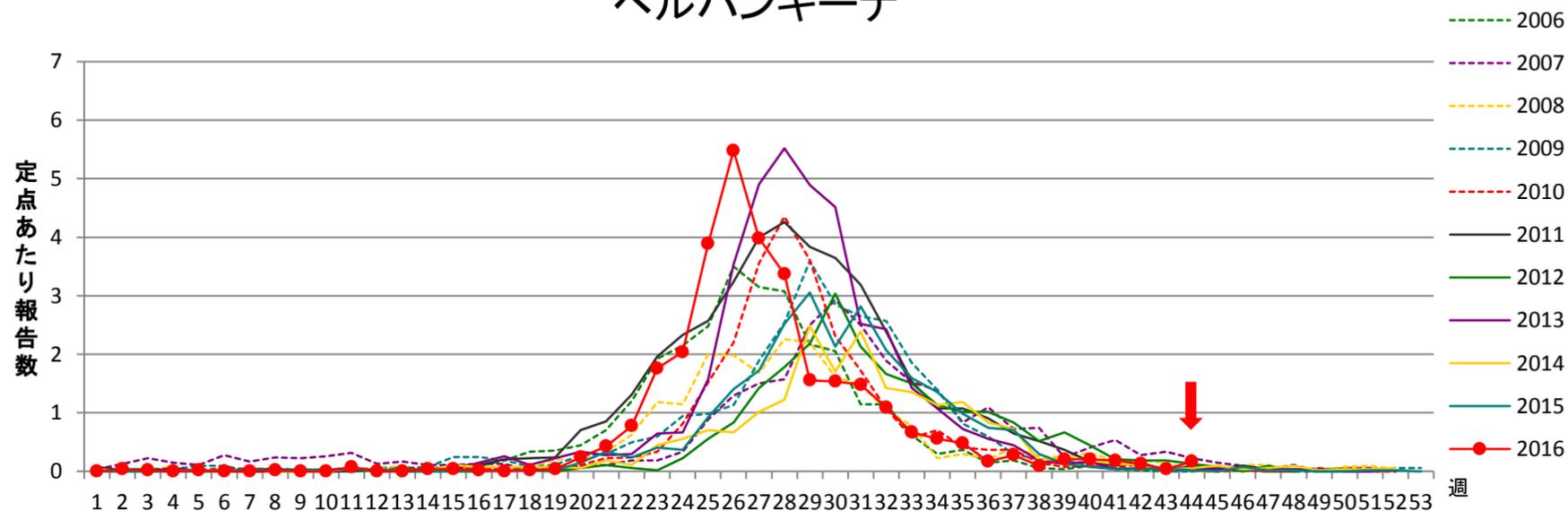
突発性発疹



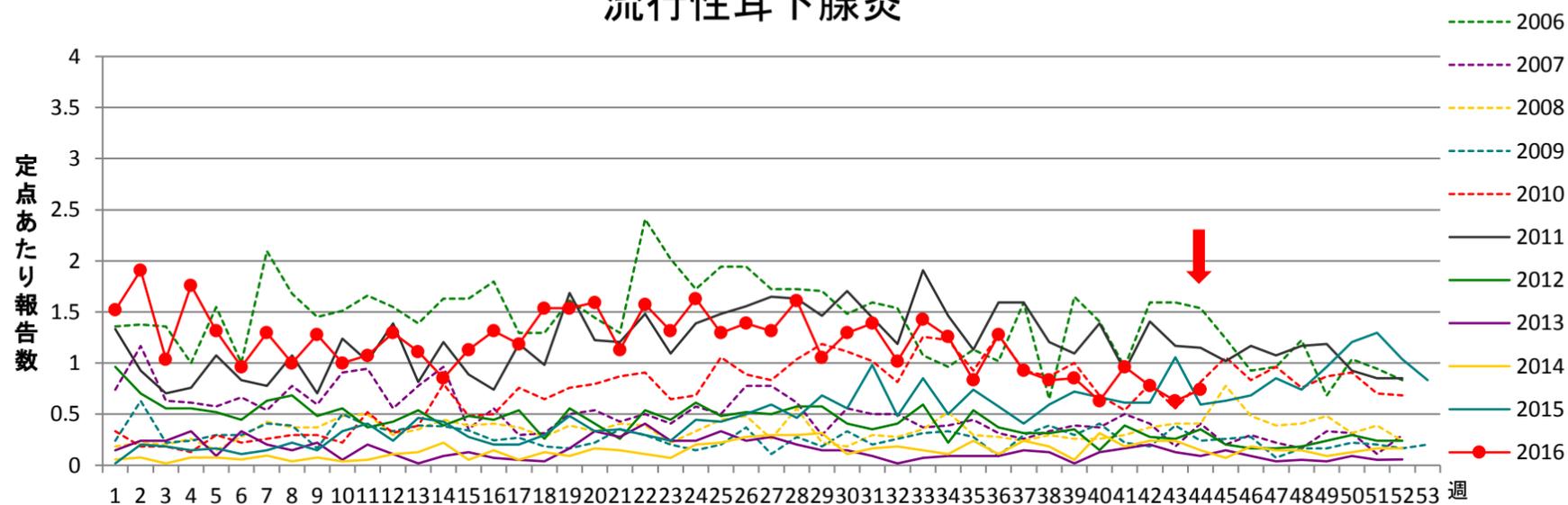
百日咳



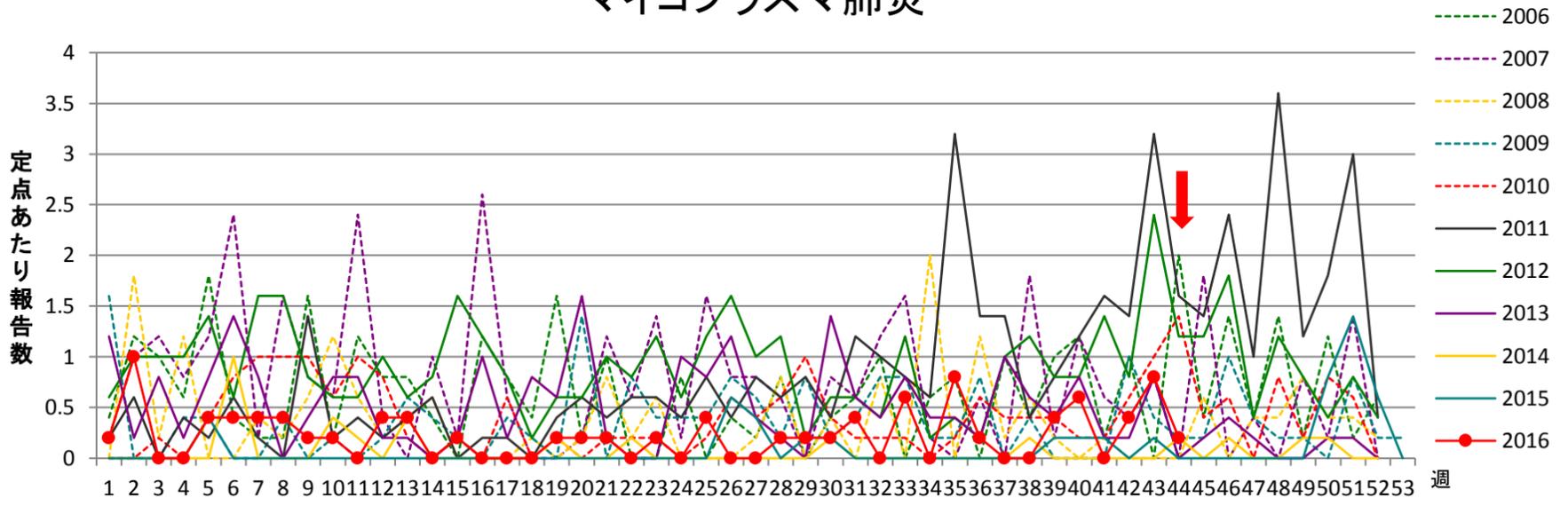
ヘルパンギーナ



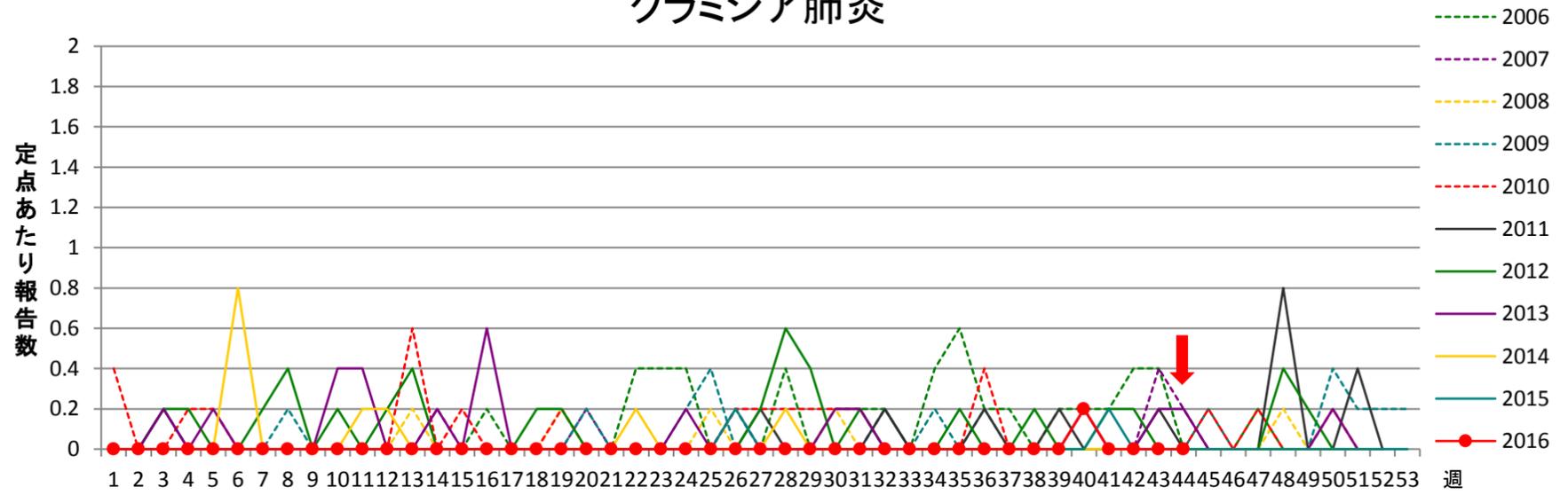
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

